

第11回

---

京都都市緑化  
写真コンクール  
入選作品集

---

(平成7年度)

緑とオープンスペースは、大気の浄化・気温の調節など良好な環境づくりに大切な役割を果たしているほか、潤いのある生活環境の確保、レクリエーションの場の提供など多くの役割を担っており、安全で快適な都市環境の形成に欠くことのできないものです。

このような緑の重要性と都市緑化の必要性に対する理解を深めるために、10月の「都市緑化月間」を中心に、全国各地で緑と公園に関するさまざまな行事が行われました。

京都では、この「都市緑化月間」の行事のひとつとして、「街の緑と公園」、「身近な小さな緑」、「窓辺の花や緑」などを主題とした「第11回京都都市緑化写真コンクール」を行い、275点の応募作品の中から入選作品として優秀な作品45点を選びました。

主催 京都府都市計画協会  
共催 京都府・京都  
(財)京都府公園公社  
(財)京都市都市緑化協会  
(社)京都府造園建設業協会



— 京都市長賞 —



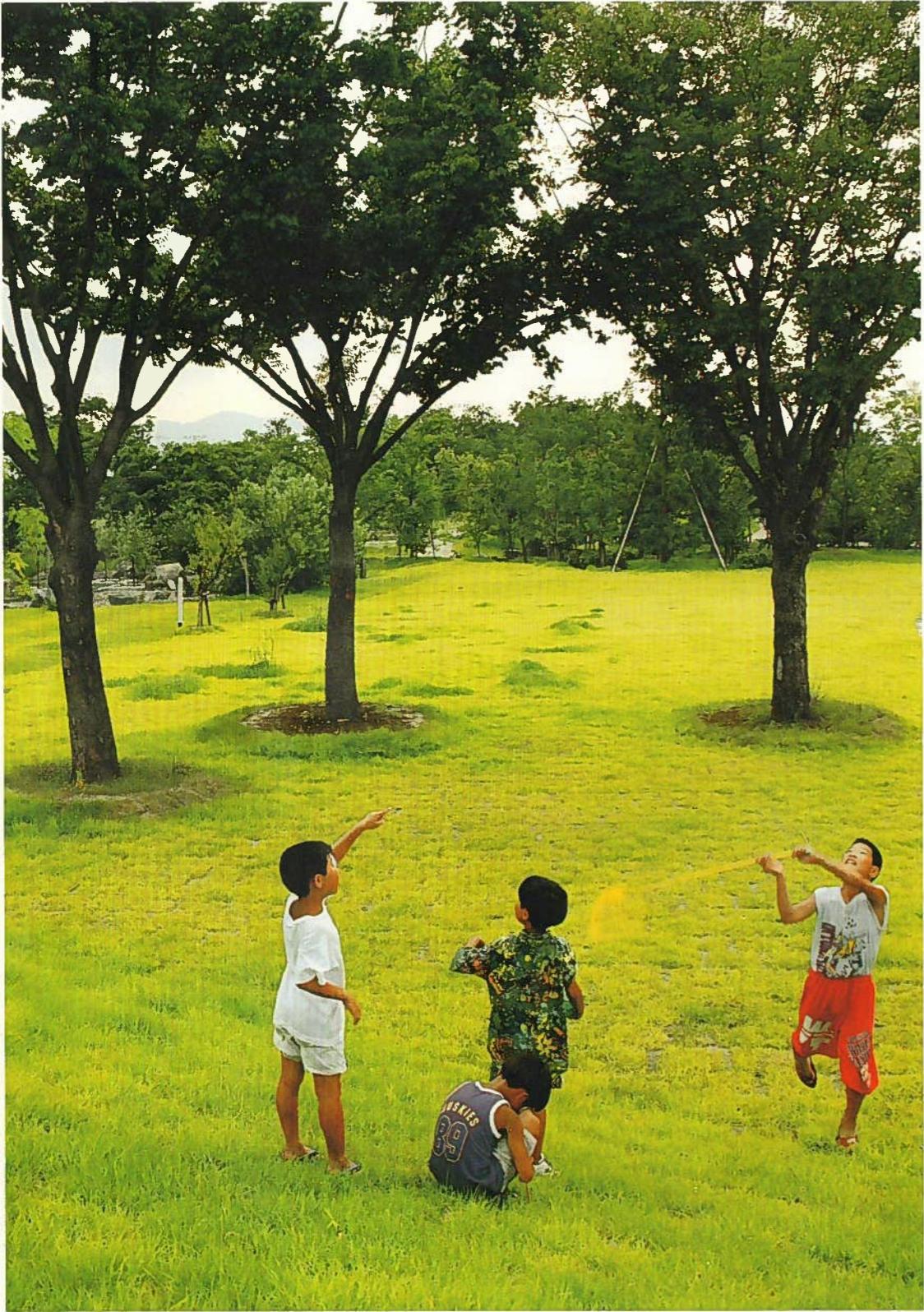
「ビル間の緑」 中島 清

— (財)京都府公園公社理事長賞 —



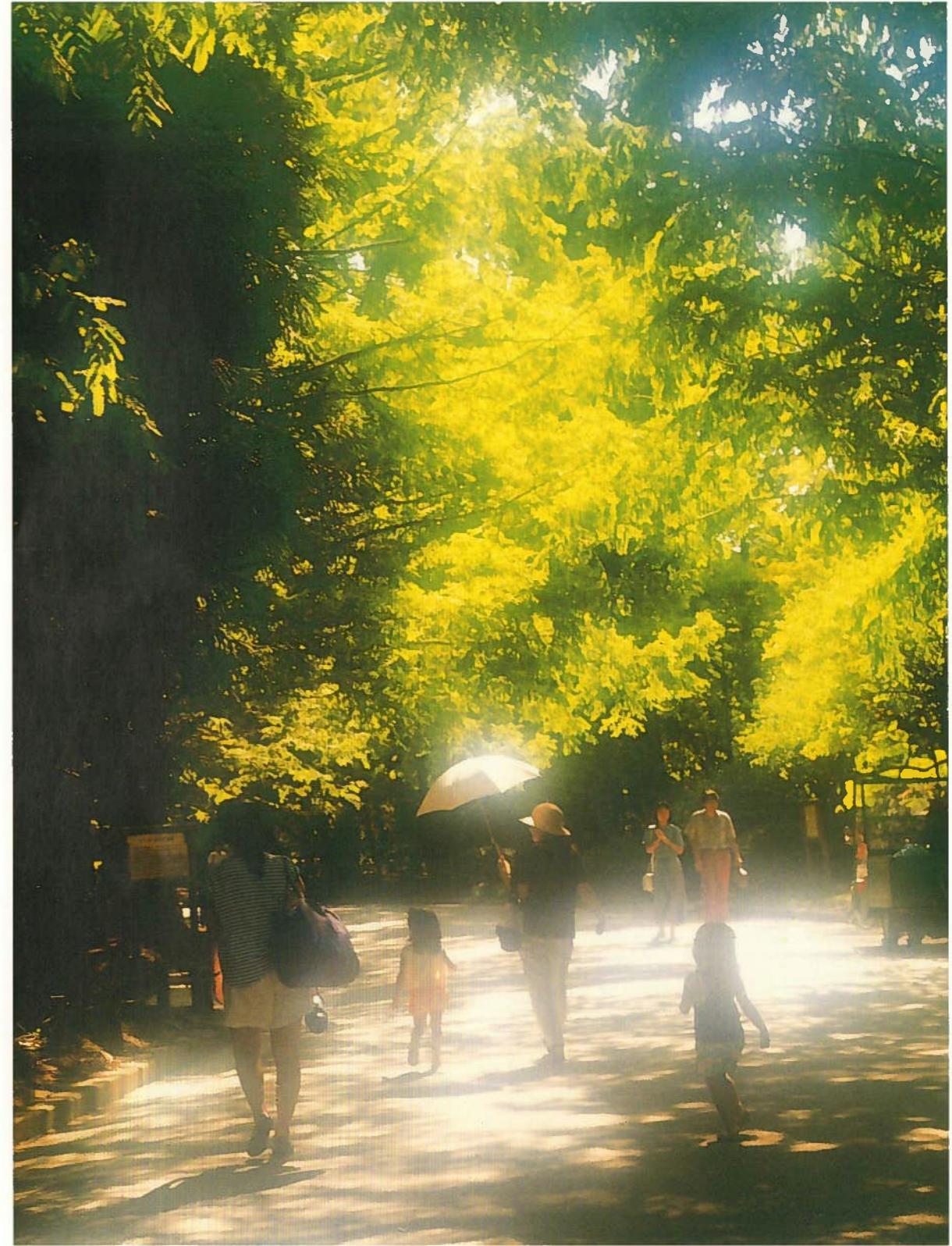
「輝く緑」 長岡 隆男

— (財)京都市都市緑化協会理事長賞 —



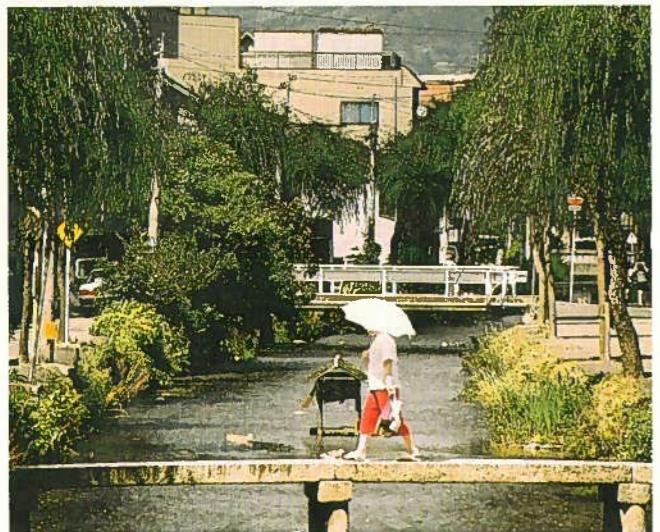
「緑化に躍動」田口忠夫

— (社)京都府造園建設業協会長賞 —



「春の陽差し」田崎一郎

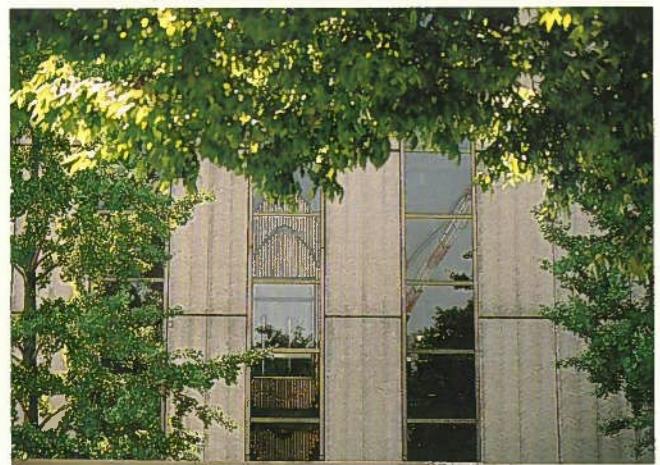
—優秀賞—



「川畔の緑」原 幸子



「夏宵の夢」谷田道雄



「ビルの木蔭」白井敏夫



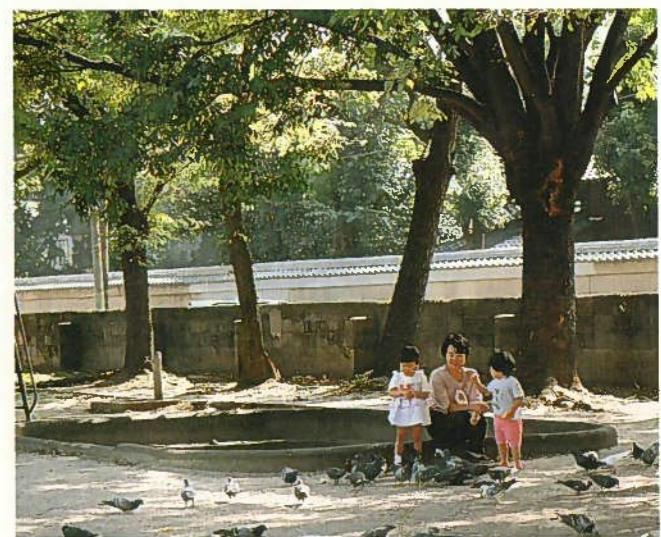
「緑の広場」平木タミ子



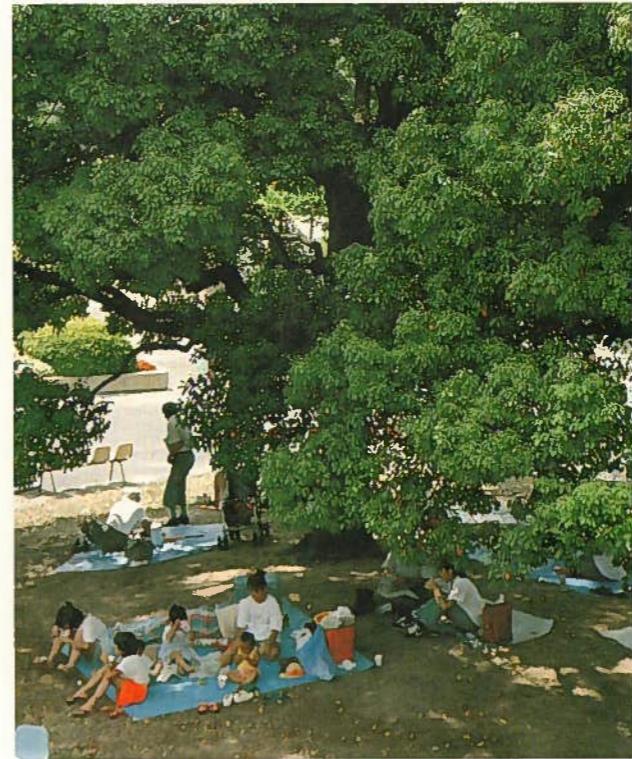
「緑に待つ」野口美子



「伏見港公園の柳並木」小原正義



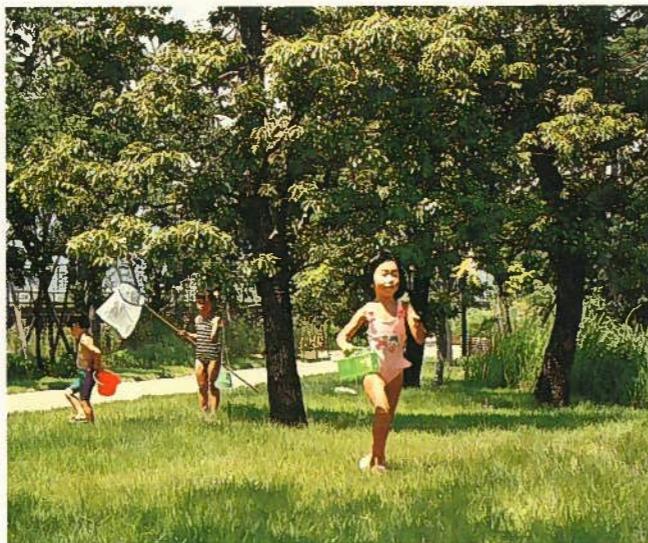
「こかげで遊ぶ」戸田米一



「緑樹」浜崎照男



「緑陰」久保芳子



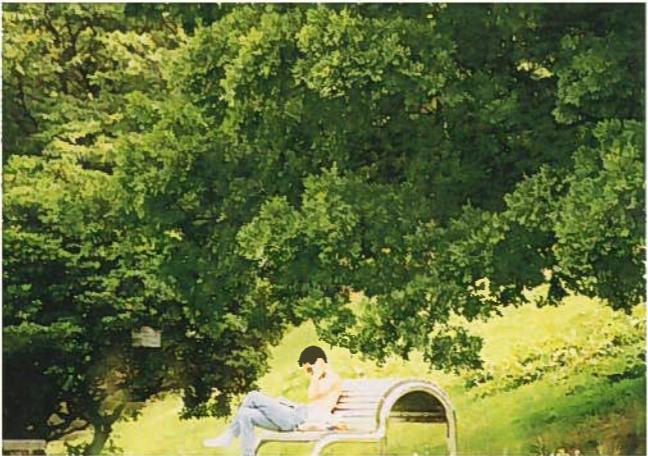
「緑の広場」高橋好子

—優秀賞—

—佳 作—



「身边な小さな縁」 杉江泰定



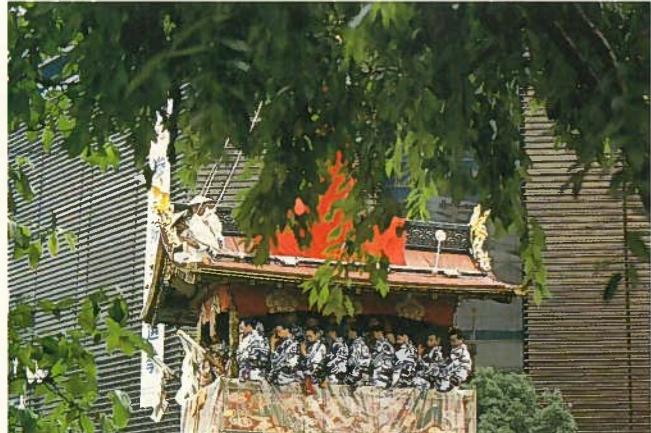
「寄らば大樹の蔭」 大塚修司



「新緑の中で」 神内宏輝



「京都北山」 倉田武彦



「緑の街と祭り」 森鼻典正



「縁1」 藤江直樹

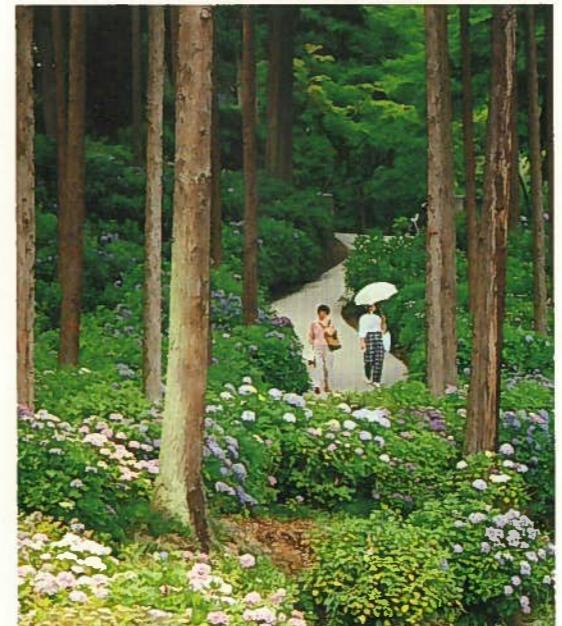
—佳 作—



「木陰に集いて」 岡部 隆



「街のオアシス」 橋本健治



「みどりの散歩」 木村竹治郎



「川端遊歩緑道」 横道政一



「緑浴」 中島良太郎



「新緑下の勉強」 大上キミヨ

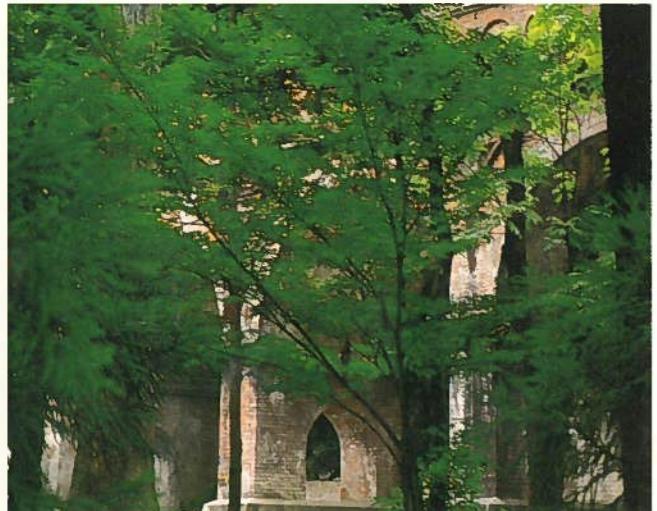
—佳 作—



「休日」小藏武三



「街路樹」伏木弘臣



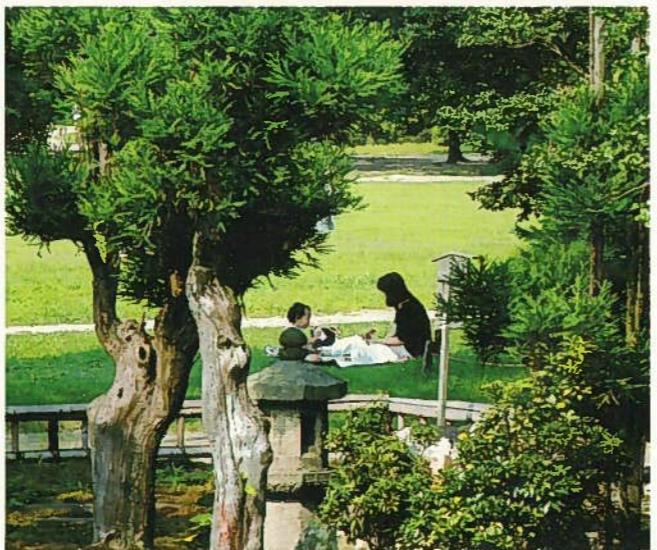
「緑風」木村妙子



「ハナミズキ咲く街角」畠 精一



「空中に跳ねる」小畠礼司

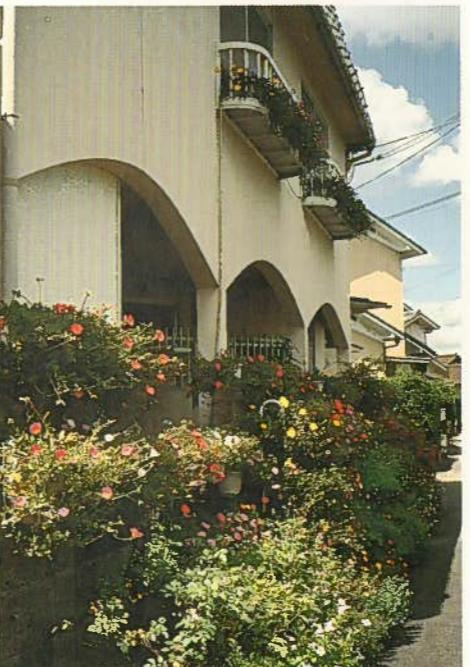


「緑の中の親子」西 義雄

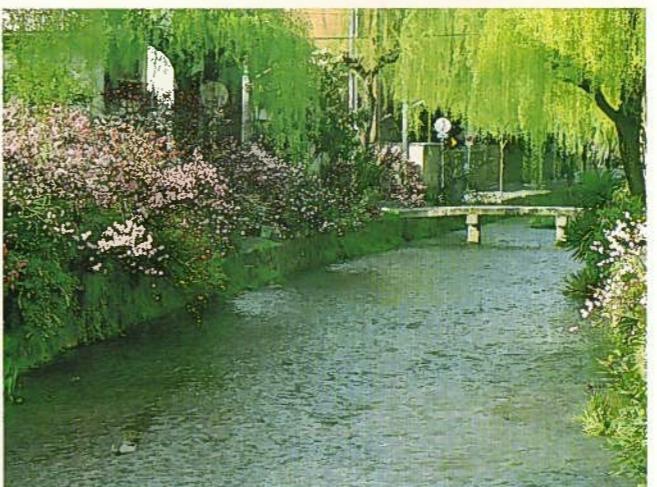
—佳 作—



「伝統美と緑」谷口一男



「花にかこまれた家」渡部恵美子



「春の色」秋田茂男



「緑りのコート」南部 齊

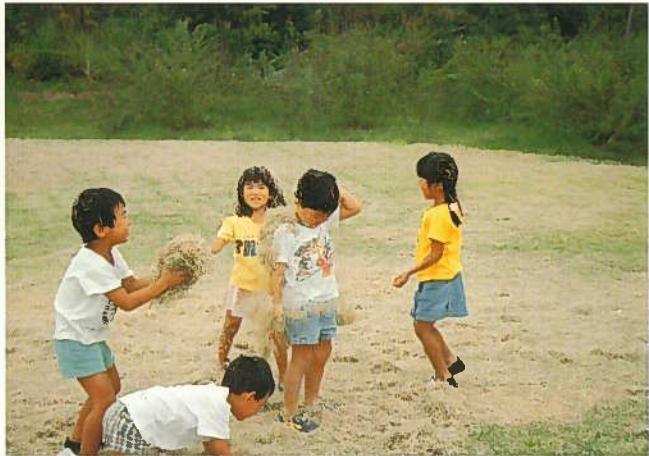


「緑と噴水」寺川湖三



「五月晴れの遠足」中川義和

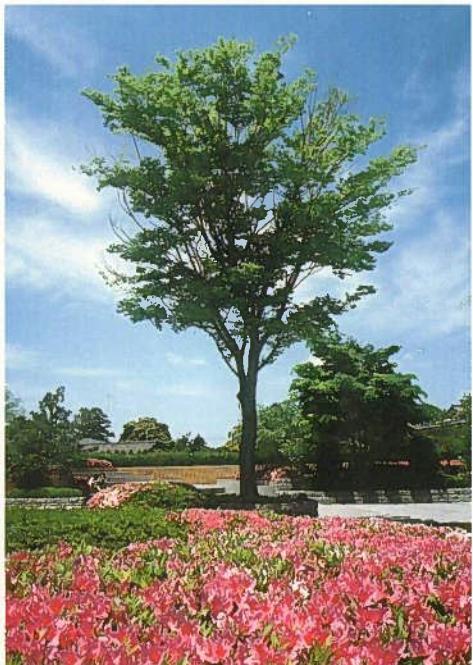
—佳作—



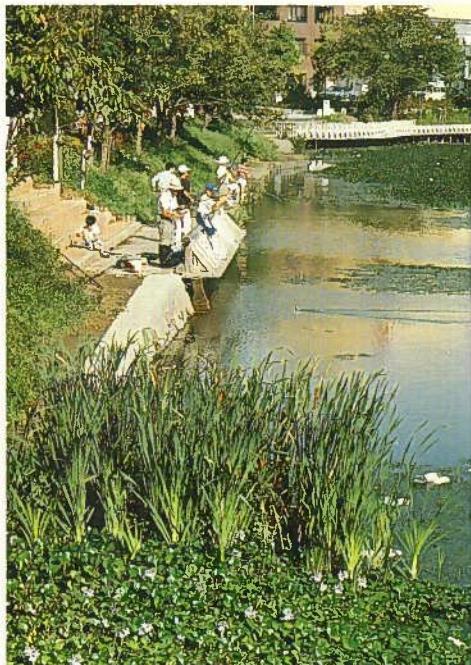
「芝遊び」折戸 淳



「或る光景」河原林 豊



「お昼は外で」石井 寛



「南郷池にて」中邑 勝



「公園でゲートボール」田村 遼男



「いこい」垣村 喜三

# 第11回京都都市緑化写真コンクール講評

古都保存文化写真協会会長

写真作家 小林文司

街の緑を守り育てていこうと始まったこの写真コンクールも、昨年の10回という節目を経て、新たな気持ちで第11回を迎えました。

街づくりには、緑とゆとりのある空間は欠かせないものです。都市の緑化には、街路樹や公園が大切な役割を果たしており、これまでに住む人々の生活環境を守ってきました。先の阪神大震災は、多くの人々にとっても都市そのものにとっても、大変いたましい出来事でありましたが、街路樹や公園が都市の防災に役立ったことが明らかにされるなど、私達に改めて街づくりについて多くの教訓を残してくれました。これから街づくりにあたっては、そこに暮らす人々が緑の大切さを考え、身近なところから都市緑化を進めてもらいたいものです。

本年の写真コンクールの選定に当たっては、こうした街の緑の大切さや住む人と緑との関わりを見つめるものから選びました。

第11回の応募作品数は275点と、昨年の全国都市緑化きょうとフェアの盛り上がりの中での応募に比べ少し減少しましたが、今回は、常連に加えて新規の応募者が増えてきたように思います。

京都府知事賞は、近代都市の中の緑、とりわけ建物との調和や生活感のある若者をたくみにとらえている作品です。

京都市長賞は、樹木を配した作庭の美しさに囲い窓の中の人物を取り入れ、斬新な目で庭園美を表しています。

京都府公園公社理事長賞は、日傘のピンク色が利いてまわりの緑が生きており、よく考えた構図です。

京都市都市緑化協会理事長賞は、今年にオープンした梅小路公園で遊ぶ子供たちの童心が良く表れているほほえましい作品で、赤いパンツの子供が印象的です。

京都府造園建設業協会長賞は、ソフトフォーカスで逆光を生かし、若葉色のムードがうまく表された作品です。

総評としては、新規の応募者が増えており、全体的に今少し技術的な工夫が必要なものも見受けられますが、素材として、本年度にオープンした梅小路公園及びいはんな記念公園も加わり、街の緑をつぶさに観察した作品が多く見られました。カメラのファインダーを通して、少なくなりつつある緑の現状や街づくりにとって大切な緑を見つめることによって、この写真コンクールの応募者が、古都の文化と緑、活性化する街づくりの中での緑の大切さをアピールしてもらいたいものです。

## **第11回京都都市緑化写真コンクール**

- 主催**／京都府都市計画協会
- 共催**／京都府、京都市、(財)京都府公園公社、  
(財)京都市都市緑化協会、(社)京都府造園建設業協会
- 後援**／京都府市長会、京都府町村会、京都新聞社、KBS京都、  
α-STATION FM KYOTO
- 協賛**／京都府造園組合連合会、日本造園修景協会京都府支部、  
京都府写真材料商業組合、富士写真フィルム株式会社  
(順不同)